

2010年度 冬季研修会 報告

1月22日、たかつガーデンで冬季研修会を行いました。午前・午後7つの講座に、のべ285名の参加がありました。どの講座も参加された方みんな熱心に受講され、これからの実践に役立てていこうとしておられました。講師の皆様、各支部から来られた役員の皆様、本当に有難うございました。

各講座の内容報告とアンケートの集約をご覧下さい。講座によっては、定員を超過し、何人もの方にお断りをさせていただきました。申しわけありませんでした。これからの研修の機会には、ぜひご参加ください。

自閉症の理解と支援のあり方（室田澄江氏）

自閉症を含む「広汎性発達障がい（PDD）」の特性…①社会性
②コミュニケーション ③想像力
④その他（体の感覚等）についての解説と、具体的な教育的対応の仕方について、さまざまな例をあげながら教えていただきました。



特にこのような特性のある多くの子ども達が苦手とする、社会的スキルの向上へのさまざまな支援方法について、詳しく教えていただきました。

支援を行う際の「支援者としての役割、心構え」について下記にまとめます。

- ① 自閉症の人たちの世界、感じ方、理解の仕方、価値観を理解する。
- ② 社会の側の常識を一方向的に押しついたり、彼らの特性を無視して「我慢や慣れること」を強要しない。
- ③ パニックやこだわりを「自閉症だから」と、自閉症の人の責任にしない。パニックやこだわりの多くは、環境的な配慮で予防や改善することができる。
- ④ 自閉症の人ができない事を代行することだけが援助ではない。その人が出来る事、興味感心を持っている事を見つけて、その人自身が成功体験を積み、自信や自尊心が持てる様に環境や関わり方の配慮をする。

（学校現場において）集団の大切さを考えるとともに、集団の力でその人の可能性を摘んでいないか？ということも考えていく必要がある。

- ⑤ 支援者（先生）によって対応を変えずに、一貫した指導、支援をする。

PDDの人をとりまく周りの子ども、人たちに対してPDDの人達の特性についての理解を深める支援を行う。 絵本、紙芝居等を使うと効果的。

発達障がいの子どもをつつむクラスづくり（松久眞実氏）



「松久先生の話は、何度聞いても、いつ聞いても元気をもらえます」という参加者の方々の感想をたくさんいただきました。

少し前まで現役の小学校教師（通常学級・通級教室）として子どもたちと向き合ってきた先生のたくさんの体験談は即、明日からの学級

経営に役立つものばかりで、具体的内容が非常によかったと思います。

支援の必要な子を包み込む「あったかクラス大作戦」の20個の取り組みの中で、自己コントロール力をつける取り組み、普通の授業の中でソーシャルスキルを身につけさせる、が印象的でした。それとともに、教師の怒りのコントロールの中の「好意に満ちた語りかけ」をいつも心がけて子どもたちと接していきたいなあとおもいました。準備物も何も必要なく、明日からすぐ始められる実践を、たくさんの先生方に広めていけたら…と感じた研修でした。

子どもの性を考える（大橋一予氏、中野智恵氏、中村昭代氏）

大阪手をつなぐ育成会の相談支援専門員の中村昭代さんと、中野智恵さん、大阪自閉症協会の大橋一予さんの3人の方に講師として来て頂きました。大橋さんは、施設に入所している41歳の男性のお母さんです。

中村さんは、基本的な生活習慣を身につけること、自分を大切にする自尊心を育て、周りの人との距離のとり方を学び、社会の一員として生きていく生き方を学ぶということが大切ということをお話されました。そして、30才を過ぎた女性が、一般就労している会社でトイレットペーパーを1巻すべて使ってしまふことがたびたびあり、トイレの自立が出来るまで出社しなくてよいと言われたことを、一つの例としてあげられました。中野さんは、発達障がいの中でも自閉的傾向の強いお子さんの保護者の方たちと特性を踏まえた性（生活）のマナーを絵カードを使って伝えるという支援をされています。生理の手当の方法、お風呂の入り方、プライベートゾーンを知らせる、自分の体を知る等です。性にまつわる子ども達の行動に対して学校だけで取り組むのではなく、医療者に支援



を求めるのも大切なことであると事例を紹介されながら伝えられました。大橋さんは、家庭が中心であり、それに合わせて学校や施設が支援していくということ、学校の生活は一生の中の一部分であり、教師が関わる期間は短い。その中で保護者と、どれだけ良い関係がもてるかと言うことが大切である。問題事象があったときは保護者との関わりを大事にして出来る範囲と出来ない範囲を考え、焦らずにしていくことが大事と話されました。

その後、事前にした質問へのお答え、適切な助言を頂きました。そのうち幾つかを示します。参加された方と具体的事例に対して意見交換ができ、集団での指導のポイントや個別の具体的指導方法などを模索できれば、さらに発展が期待されると思いました。

- ・ 性器をズボンの上からさわる。家でもさわってはいけないと言われ、学校でもみんなの前でさわってはいけないと言われている。
- ・ 特定の女の子に対して好意を表し、手紙を書いたり家に遊びに行ったり、登校して来る門で待っている。
- ・ 授業中に女の子の机の下に入り足をつかんだりする。
- ・ 休み時間等に女子児童のお尻をさわる、自分のお尻を出す。
- ・ 人目を気にせず男の先生に近づいていく。
- ・ 男女に関わりなくお尻や胸をさわろうとする。自分の性器を人に見せたり触ったりする。下着1枚になる。

高次脳機能障がいについて（栗村由喜江氏、西野朋子氏）

大阪府障がい者自立相談支援センター身体障がい者支援課のケースワーカーの栗村由喜江さんと、西野朋子さんにお話をさせて頂きました。

「高次脳機能障がい」は病気や事故などの様々な原因で脳の

一部が損傷を受けた結果、記憶・注意・思考・言語・行動・感情といった高度な脳の働きに障がいが表れる事です。その特性として、認知や行動の障がいは外見からわかりにくい、本人自身も障がいを十分に認識できておらず、本人の言っていることと現実にギャップがあるケースが多い、環境に大きく影響を受けやすい、障がいは復職や復学後といった社会活動場面で出現しやすい、ということがあります。

これまでは「高次脳機能障がい」は大人のもと考えられていましたが、最近では子どもについての事例が報告されています。

子どもの場合の対応のポイント、①親も子も混乱している②一人ひとり障がい内容が違う③年齢により症状や問題が異なる④正しい評価が第一歩⑤子どもの評価は難しい⑥症状



は環境によって変化する⑦家庭・学校・支援機関が連携する⑧子どものリハビリは学校。

学校での対応、①座席は前列で窓側は避ける②話だけでは理解できないので視覚的な対応を行う③疲れやすいのでクールダウンする場所(本人が校内で一番落ち着く場所)の確保。

そしてクラス替えや転校・進学の場合には、①引継を確実にし対応の統一性と仲の良い友だちを同じクラスに②学校間の情報交換③通学路や通学手段の確保と早退時の対応④中学校卒業後の進路選択時の情報収集⑤将来の職業も考慮し専門学科のある高校も選択肢の一つ(電車は人が多くて疲れやすいので、自転車等、通学方法も大きなポイントになる)。

そして、軽傷の脳外傷後に問題が生じた場合は、①急性期の症状の把握②以前と変わったことを把握する③専門機関への相談が大切です。

お二人からは、学校訪問による就学支援を行っておられることもお話頂きました。最後に現在中学生の子どもの事例について紹介して頂きました。

スクールカウンセラーから見た支援教育(長田道氏)

スクールカウンセラー(SC)は、教育現場では良く聞く職名であるが、仕事内容を正確に把握している先生は非常に少ない現状です。SCとSSW(スクールソーシャルワーカー)の業務内容についても線引きがあい



まいな現状です。SCとしてさまざまな課題を抱える子ども達の支援への道筋と、具体的な支援例をパターン別に具体的に解説していただきました。その中で、SCが配置されている学校は、着実に教育的効果は出ているが、SCの絶対数が少ないので、全ての学校がその支援体制を受けられてはいない(指定中学校優先の配置)。支援時間数が決まっているので(一日6時間・1年勤務・同一校勤務は最大5年)、たくさん子ども達に関わることが困難である。等の課題も提示されました。後半、講師の先生への質疑応答の中で各学校の現状と課題解決についてのアドバイスもしていただきました。

・課題を抱える子どもたちを支援していくには、学校関係者の関わりが必要である。各担任が積極的にSCに子ども達の情報を入れて、連携して支援にあたるのが大切である。

・家庭に課題がある場合も多く、子どもだけでなく保護者のカウンセリングも行いながら支援をしていかなければならないケースも多い。家庭の教育力が高まると、子どもは精神面でとても落ち着き成長をする。

・SCの仕事内容は、行政区、学校、SCの先生、によって違う現状である。小学校には配置されていないので、SCの必要性がある場合は、小学校側から積極的にニーズを出してほしい。

発達障がいのある人への「安心と自尊心」にもとづく学習支援



(井川百々代氏)

- ・今の教育現場の大変さ、子ども達のしんどさ
→「いいこってどんなこ?」「おこだで
ませんように」2冊の絵本で紹介
- ・発達障がいを持った子どもの困難さの理解
集中できない、気持ち・場の空気が読めない、
漢字が覚えられない、算数が分からない
↓ 叱責と教え込み、強い指導
不安、自信がない、勉強嫌い

本当の姿は → 良く気がつく、まじめ、一生懸命、やさしい

◆ADHD・・・人なつっこい、行動が早い、明るい、親切、良く気がつく

◆PDD (高機能 広汎性発達障害)・・・まじめ、だじやれが好き

(アスペルガー症候群)・・・研究熱心、物知り博士、仕事が丁寧

◆LD・・・やさしい、思いやりがある、控えめ、こだわらない、人にあわせる

◎隠されている子どもの本当の良さを生かすには、「そんなところでくるしんでいたのか」と分かってやること・・・子ども理解

- ・「できなくても頑張っていることは認めるよ」「ここまではできてるね」と出来ているところを確認する。
- ・ 集団と学習の中で、安心の居場所づくりの大切さ →安心できる居場所になる集団と分からないことが「分からない」と言える学習の場
- ・その他 教具紹介がありました。

バーチャルAD/HD (熊野健司氏)

12:50 から 14 時まで、『バーチャル AD/HD』を体験する時間を設け、事前に申し込まれた 19 名が『バーチャル AD/HD』を体験し、その感想を発表しました。「悪気はなく、注意がそれてしまうんだなと分かった」「見ようとしても黒板に視線が合わず、苛々する気持ちが分かる」「視界もどんどん変わり、音も複数入って来て、すごい大変・疲れるだろうな」「不注意に悪気はないのに、周りから叱責され続けるから、自己肯定感が持てないだろう」と本人目線で AD/HD の理解が深まったり、「自分の見え方が普通だと思っているのだろうか」「自分の



特徴を分かっていく必要があるかな」と本人の障がい理解に思いをきたしたり、様々な感想が出されました。

これらの感想を受け、講師であるヤンセン・ファーマ株式会社の熊野健司氏より、中等度の不注意の症状を疑似体験（視覚と聴覚のみ）し、当事者の思いを理解し、適切な支援へとつなげていくことが、この『バーチャル AD/HD』の開発目的であること。とはいえ、『バーチャル AD/HD』は、多様な刺激が連続的に再現されているが、実際には、刺激も不連続だし、臭覚などほかの刺激もあり、もっと大変な状態が想定されること。AD/HDの人が薬を飲むことで、刺激が抑制され、客観性を持って、自分を見ることができるようから、その時に、自分の見え方などの自己理解が得られる可能性があることなどが説明されました。

次に、『バーチャル AD/HD』を再現すべく開発された DVD を見る予定が、セルフエスティーム用の DVD しかなく、それを見た上で、『バーチャル AD/HD』を教育現場に生かすにはどんな方法があるか？という課題を、3～4人でグループ討論し、グループごとに発表しました。やはり、教職員向け校内研修という案が多く出された。DVDを見て、当事者の話を聞き、そのうえで、教室をみんなで見回して環境づくりをすとか、DVDを逐一止めながら、この場面での、子どもを傷つけない声掛けは何かを、みんなで考えるなど。他には、保護者の啓発のために見せる案が出されたり、一斉に見せるより、個別に見せる方が効果的ではないかという意見もありました。また、授業参観の中で、子どもと一緒に観て、人の気持ちを考える授業をしてはどうか。それをするなら AD/HD という障がい名が独り歩きしてしまう危険性を回避するために、AD/HD ということを伏せて、「集中できないときってあるよね。そんな時、こんなことが起こっているのかもしれないよ。」といった紹介だけで、この DVD を観るといった提案もあった。様々な具体的な提案がされ、講師の熊野氏から、参加者への謝辞が示されました。

残りの時間で、6名が、『バーチャル AD/HD』を体験させてもらい、分科会への参加者は、ほぼ全員体験することができた。



アンケートより **ご協力有難うございました!**

これからの研修および会の活動に活かしていきます

参加者（アンケートに協力いただいた方）の内訳

小学校	67%	（支援学級	53、通常学級・その他	14）
中学校	22%	（支援学級	18、通常学級・その他	4）
支援学校	7%	その他	4%	（幼稚園, 大学院, 福祉関係など）

講座の感想など

自閉症の理解と支援のあり方

- ・自閉症についての基本的な事から、特性について話をしていただき勉強になった。
- ・イラスト・絵本等の資料を使い、分かりやすかった。
- ・ABC分析の話が聞けてよかった。
- ・とても分かりやすいお話で、日頃の自分の関わり方を改めて見直す視点をいただき、ありがたかった。
- ・支援の在り方についての話は、具体的で分かりやすかった。
- ・内容が盛りだくさんで、一度には全て頭には入らなかったが、筋道は立てられそうに思うので再度読み返し役立てていきたい。
- ・支援者側の心の持ち方のお話がとても良かった。しっかりと覚えておきたいと思う。
- ・現在担任をしている子達の中に、今日のお話の内容に当てはまる子どもと保護者がいる。その保護者に対しての支援をどうしようかと悩んでいたが、具体的な話の中に参考になるところがたくさんあった。
- ・今日の講座内容を、校内研修で伝達講習していきたいと思う。
- ・今日のお話を聞き、出来ることからやっていく大切さを実感した。

発達障がいの子どもをつつむクラスづくり

- ・先生の実践を含めたお話がとてもよく分かりました。月曜日から、できることからがんばってみようと思いました。とても元気をもらえるお話でした。
- ・ご自身の体験を交えたとても分かりやすいお話で、時間がたつのが早かったです。具体的な支援の方法をお聞きし、学級での取り組みに活かしていきたいと思いました。学校全体にも取り組みを広げていきたいと感じました。

- ・どれもとても分かりやすい話で、すぐに役立つものばかりでした。松久先生が、苦労してきたことを、どうにか良くしたい！ そのためにできることを！ という強い気持ちが伝わってきました。発達障がいの子もそうでない子もすべての子どもたちにできる実践が、これからもっともっと必要になってきます。私ももっと考えようとやる気になりました。
- ・信頼関係をつくるために好意に満ちた語りかけ方が大切。なるほどなあ、じぶんもそうだったなあと思った。いろいろアイデアに満ちた実践を聞いて楽しかった。
(以上と同様のご意見が多数ありました)
- ・幼稚園のときから実践できる内容で、とても参考になりました。さっそく他の先生たちにも伝え取り組みたいです。今日参加してよかったです。
- ・クラス作りだけでなく、教職員の学校づくりも同じであると気づきました。
- ・自分のクラスにも発達障がいの児童が数人いて、その子たちの支援方法が分からず、試行錯誤を繰り返しながら日々接しているので、非常に参考になりました。さっそく実践させていただきたいと思います。
- ・タイトルに惹かれて参加させてもらいました。ぜひ他の先生にも伝えたいし、明日より実践したいです。つくづくストレスの多い仕事だなー、と痛感しました。
- ・二回目の松久先生の研修参加になりました。参加するごとに、クラス作りへのきっかけをいただいています。
- ・クラス的环境がとても大事だと思っています。たくさんのヒントがありました。
- ・失敗の体験談も交えて話してくださり、とても分かりやすく元気をいただきました。
- ・とても楽しく元気がもらえる話でした。親としての立場からのお話もいろいろ聞きたいな、と思いました。
- ・今日は初めてリフレーミングの手法を教えてもらいました。これから使えそうです。
- ・ぜひ、校内研修で若手教員に話してほしいと思いました。

子どもの性を考える

- ・とりたてて性のことを考えたり教えたりというようにするのではなく、小さいときから生活のことを指導する一環という考え方に納得しました。具体的項目を詳しく書いていただいていますので、それに添って生活全般を指導する中に入れ込んでいきたいと思います。
- ・2年目です。昨年も今年も6年生の男児の性のめざめにとまどっています。でも、具体的なことを教わって、すぐに活かせそうです。参加してよかったです。他害の子についても、今支援センターと相談予定です。自分の勉強不足でセンターに相談してしまう～と悩んでいましたが、これでいいのかと！ほっとしました。

- ・色々な事例を聞きながら、具体的な対処の方法を聞くことが出来、大変有意義でした。性に関して視覚的に教えられる本も紹介いただき、これからの指導に活かされる情報もいただき、ありがとうございました。
- ・3人の先生、それぞれの切り口で性についてのお話を聞かせていただくことができ、大変勉強になりました。‘性’というものは‘生きる’ということそのものだと改めて感じました。

高次脳機能障がいについて

- ・昨年から支援学級担当になって初めての経験ばかりである。毎日がどう対処すればいいのか、うろろうろするばかりで、一時は精神的にもしんどい時期があったが、今日の研修で、本当に基本からことばの意味から解説してもらえるような初任者にも役立つ研修であった。
- ・子どもに対する対応をもっと知りたかった。今日はどうもありがとうございました。
- ・とても勉強になりました。

スクールカウンセラーから見た支援教育

- ・スクールカウンセラー（SC）の仕事や各学校との繋がりについて、具体的な話が聞けて参考になった。小学校にも、もっとSCさんが来てほしい。
- ・SCさんに学校現場でどう活躍していただくか情報の場があまりなかったので、非常に興味深く聞かせてもらった。
- ・日頃学校現場でも、SCさんには深く関わっていただいているので、今後ますます活躍していただけるよう、学校の方も勉強していかなければいけないと思う。
- ・色々な役目をコーディネーターさんと密にやっていると良いのだ、もっとSCさんを頼っても良いのだな、と感じた。
- ・SCさん・教師の両方の視点や意見を聞くことができ、良かった。この講座のようなSCさん・教師が意見を交換できる場がもっとあれば良いと思う。
- ・今回お話は、中学校の生徒さんのお話だったが、小学校の中学年、高学年の経験から見えてくることが多く、とても参考になった。
- ・SCさんの働きの重要性は非常に高いが、週1回6時間といった支援体制は中途半端で、かえってSCさんが苦勞をするのでは・・・と感じた。
- ・講師の先生は、具体的な指導法も使って活躍されているので、現場の職員としては一人でも先生が増えれば、もっと子どもの力を支えていけるので有難い。

発達障がいのある人への「安心と自尊心」にもとづく学習支援

- ・発達障がいのある子どもたちの気持ちが少し分かったようです。やはり、みんなできたい、わかりたいと思っているところから、色々な表わし方をしているのですね。それを工夫と見ることの大切さを認識しました。
- ・実践に基づいたお話がたくさん聞けて、大変参考になりました。発達障がいのある子どもの特性をとらえ、温かく安心できる環境（学習・生活面含めて）を整えてあげることが大事なんだなと思いました。また、しかって聞かせるのではなく、ほめる機会を設定して、少しでも自分に自信を持たせ、意欲が出てくるように接する必要があるのではと思いました。今日のお話を参考に、頑張っていきたいと思います。
- ・先生の実践にもとづく話だったので、大変分かりやすかったです。
- ・井川先生のお話とても良く分かりました。実践されていること、考え方を参考にして、これからの指導に役立てたいと思います。
- ・目からウロコでした。私は今まで学習障がいだらうなあとと思っている子達を放課後残し、漢字学習では「指がき、なぞり書き、をすればできるようになるよ」「本気でがんばろう」など、親切の押し売りをしていました。心を入れかえます。
- ・子どもに対するあたたかさが良く伝わってきました。障がい特性や対応の仕方を具体的に教えてくださってありがとうございます。
- ・冊子に大切なことがまとめてもらってあり、分かりやすかった。
- ・先生のお話のなかには、今担任している子に思い当たることがたくさんあり、早速月曜日から活用させていただくことが出来ます。ありがとうございました。
- ・「その通りやなあ」「そうだった！忘れてた」の連続で、共感したり、確認したりと気持ちよく拝聴させていただきました。自尊感情を育てることが自立への大事な基本と心にとめて、明日からの取り組みに生かしたいと思います。
- ・支援学校小学部に勤務しているので、今担任している子は教科学習以前の子ばかり。ただ、年々児童数も増え、教科学習の必要な子も入ってきているので、今回の井川先生の経験も踏まえた具体的な話は今後役に立つと思った。
- ・先生のお話何回もうなずきながら聞かせていただきました。お話のなかにもありましたが、読み書きが苦手な子どもの宿題（作文や感想文等）を箇条書きにしたり、書きやすく支援したりしているのですが、通常学級での児童が、なぜそんなことをしているのかと理由を聞いてきたり、ズルいと思ったりしているので、伝えにくさに悩むところです。今は障がいですが、個性へと成長させていく責任を感じました。
- ・正面から教育行政の矛盾を指摘されるなかで、真面目であたたかい姿勢に大変感動しました。この現状に声をあげていきたいが、どうやっていけばいいのかわからない。これからも代弁して行ってください。

バーチャルAD/HD

- ・初めての経験でよかったです。なるべく多くの教職員・保護者に観てほしいと思います。
- ・体験者の発表、グループディスカッション（3～4人）とその発表と講師のお話という内容で、双方向にやり取りができ、とても有意義な時間を過ごせました。
- ・DVDをぜひ借りたいです。
- ・AD/HDの疑いがある子どもが、どんな気持ちで毎日を過ごしているのか少しでも理解できればと思い、参加させていただきました。貴重な体験をありがとうございました。
- ・まずは、体験できてよかったです。今後、これをどう生かしていくか、支援方法などを教えていただけるといいかなと思いました。
- ・基本的なところを、改めて確認できました。ありがとうございました。
- ・体験、DVDを通して、より集中しやすい授業、学べる環境をつくっていききたい。授業力がまだまだ不足している中、そういった工夫で、学力の向上につなげたい。AD/HDなどの症状を持っていない生徒に対しても、それは効果のあるものと思う。
- ・教師全体が同じ対応をするとよい（生徒が困らない）というのが、新しい知識でよかったです。少しでも、生徒のことを理解し、だれもが学べる場に近づけるように努力したい。
- ・研修でなく商品開発の手伝いをした感じで・・・

この研修会の運営全体について

- ・このような研修会が定期的に行われると、大変有難いです。
- ・無料で研修を受けられるので有難い。
- ・とても丁寧に取り組んでいただいて、参加しやすく思いました。
- ・非常に参考になる研修会だった。 （以上と同様の意見が多くありました）
- ・スライドを使っただけの説明や、デジカメを使っただけの説明で分かりやすかった。

- ・平日だと、学校からなかなか出にくいので、実施日が休日だと参加しやすくて有難い。
- ・出来れば冬休み中（平日）がうれしい。
- ・午後の部をせめて、1：30～にして欲しい。午前から引き続きで、待ち時間が長すぎる。

- ・①参加申し込みは、メール以外も認めてほしい。 ②会場の詳細が分かりにくかった。それ以外はとても丁寧で良かった。
- ・メールでの申し込みは少し面倒でした。
- ・PCでの申し込みの後、返事があり分かりやすかった。

- ・インターネットで申し込みができ、便利で良かった。
- ・参加申し込みについて・・・スムーズで良かった。
- ・本研修会を含め大支援研があることを、偶然インターネットで知った。大支援研をもっとたくさんの先生方が知る事が出来る機会があれば・・・と感じた。(例えば、一度参加をしたら、次回の研修内容等のお知らせメール等をいただける・・・等)
- ・申し込みメールの確認メールがすぐに来て、安心しました。でも、Gの分科会の当日の進行予定も案内に載せておいたら、もっと良いと思います。このアンケート用紙・案内のお願いも、「午後のアンケートにはどんなことを書こう」と予め考えさせてもらえたので、よかったです。
- ・会場案内の簡単な地図を案内レジュメにつけてほしかった。
- ・初めて参加したが、無料で勉強できて、とてもよい。もっと宣伝してほしい。

⇒この3年間、夏の実技研修と冬季研修を実施してきました。毎年、参加されている方もおられます。ありがとうございます。

日程・日時・会場については、様々なご意見を以前からもお聞きし、今のよう
な形に至っております。今後も必要な検討をしていきます。

インターネットのHPからの申し込み、ご協力有難うございます。おかげで準備等がかなりスムーズにできるようになってきました。しかし、回答メールについて、案内の内容などについて、等々… 改善すべき点があります。事務局として可能な範囲で改善できるようにつとめますが、あわせて会員の方に、さまざまな点でご協力いただけることをお願いします。

一時期、HPからの申し込みの不具合が生じたことがあり、ご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。

大支援研ニュースの発行、HPの更新などで、情報の配信につとめたく思います。各支部を通じての連絡につきましても、役員の方を中心にご協力をお願いします。

これから、こんな講演・研修があれば…

- ・具体的な支援のツールを教えてくれるような研修（例えば、学習の指導法、支援法等）があれば。
- ・支援学級で取り組んでいる人の講演会や、いろいろな問題を起こす生徒の事例を通しての解決法などの研修会を開いてほしい。

- ・クラスの中にいるしんどい子、手のかかる子、どう対応したらいいのか分からない子、そんな子にどう向き合えばいいのか。
 - ・B講座のような具体策や理論を学べるような講座が有難い。
 - ・発達障がいをもつ子、障がいのある子どもたちをつつむ学級づくり(今日のようなもの)
 - ・松久先生の話をもっと聞きたいので、今後も研修があればと思います。
 - ・特別支援の教材作り、特に発達障害の子に合わせた教材を見せてもらったり、聞かせて欲しい。
 - ・発達障がいのある子どもがいるクラスで担任が出来る具体的な指導法、支援法や保護者との接し方。
-
- ・バーチャル体験の研修を受ける機会を増やして欲しい。
 - ・バーチャル体験はとても新鮮でした。なので、すぐに飛びつきました。普段あまりできない体験や研修をしてもらえてよかったです。無料なので大変だと思いますが、他の研修の資料もほしいです。
 - ・バーチャルの今後の動きも知りたいです。
 - ・検査、特に「WISC 実施後の仮説の立て方等の勉強会」もしくは、経験者の苦労が共有出来るような研修があれば。
 - ・WISC, K=ABC, KID等検査について (アセスメント)、見方、方法。
-
- ・学校以外の諸機関や、スクールカウンセラーさんとの連携と活用について。
 - ・進路、就学や就職の事。
 - ・支援者を支援するにはどうしたらよいか (例えば、支援学級担任を支援するには…等)
 - ・療育手帳を取得された時のメリット・デメリット、それぞれあると聞いていますが、実際に取得された方には聞きにくいので、そこを教えていただけたらと思います。
 - ・最近パーソナリティ障がいの話を耳にするようになりました。虐待との関係等いろいろとあると思うのですが、一度話を聞いて見たいです。
 - ・初任者研修がないなかで通常学級の長い経験はあっても支援学級を始めて担当する者もいるので、今後も知っていてあたりまえのことから教えていただける研修をお願いしておきたい。本人は初任者でも、校内で支援教育の中心に立たされるので。
 - ・障がい理解について。
 - ・他の分科会にも出てみたかったので、講演会が年に何度かあると良い。
 - ・教育のユニバーサルデザイン。機能訓練の方法。(ボディーイメージをつけるために…、縄跳びを跳べるようにするために…等)
 - ・具体的な取り組み、または対極の理論や知識についてたくさん講演をお願いしたい。
 - ・教育関係者だけでなく、色々な立場の方のお話が聞けると大変参考になる。

- ・若い教師が増えているので、教授法より子どもをどう見るかが大切なので、もっとこういう機会を増やして欲しい。
- ・自閉症の子どもが自己選択、自己決定できるようになるための指導法。
- ・障がいのある人が就労できている社会・企業がわかると、めざす将来像が描きやすく、支援の励みとなります。
- ・医療面、薬（処方）などの情報が知りたいです。
- ・虐待された子どもたちへの対応、学校の中でできること等、研修させてもらいたいです。
- ・個別の学習支援ツールの紹介、通常学級でのユニバーサルデザイン（中学校）、非行・問題行動化を防ぐ手立て

⇒ご意見を書かれた方、どうも有り難うございました！
来年度以降の活動に活かしていけるようにつとめます。

また、ご意見を書いていただかれた方に、ぜひ…！
よりよい活動・充実した研修の実現のため、大支援研本部の活動にぜひご協力・ご参加ください。力不足・時間不足のスタッフに、ぜひ「喝！」を入れてください。